



花のように生きる

～花への祈り～

以上に庭に咲く花のほ
うが豊かに見える。や
かもすれば私たちは花
が咲いている時だけを
花と思っているが、花
が咲いていない時も花
であることを忘れてい
ないだろうか。それは
自分が花のように生き
ることに忘れているこ
とに似ている。

神は自分に花のよう

に生きることの大切さ
に気付きなさいと言わ
れているように思う。
そもそも今まで「花
のように生きる」とは、
自分勝手に着飾って生
きることだという傾向
があった。そうではな
く、ありのままに生き
ることの大切さを花は
神を通して教えて下
さっているように思う。
花の如く散っていくた
めにも自分の本当のあ
るがままの姿にしなけ
ればならないのだ。そ
れは、一見、なんでも
ないように見えること
を丁寧に生きること
だ。



美しく咲き誇るバラもやがて散る

季節は6月。この季
節の庭の花は紫陽花
(あじさい)、バラ、蛭
袋(ぼたるぶくろ)、
金魚草などだ。
火鉢に植えている花
菖蒲も間もなく自分の
出番だとばかりに答
(つぼ)みを膨らませ
始めた。

僅か30坪余の庭に
次々に花を咲かせる力
は何だろうか、ふと
考える。水や肥料は勿
論必要だが、その奥に
何か神の計らいを感じ
る。

妻が買い求めた本の
中、臨済宗の住職、平
井正修の「花のよう
に生きる」が目に入る。
冒頭に「現代に生き
る私たちは、経済性、

若いころ思った豊か
さと今の豊かさに違い
があるように思う。

今まで豊かと思っ
て来た物質的な豊かさ
や利便性が全て不要とい
う訳ではないが、それ

平井住職とは花や
木についての考え方が
異なるが、吉野弘の「花
と木のうた」という

原罪のようなものを感
じる。花のように生き
るということは、神が
つくられたそのままの
姿を大切に生きること
のように思える。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

詩集(青土社)の中に
「人もまた、一本の樹
ではなからうかと言
う。樹の自己主張が枝
を張り出すように、人
も見えない枝を四方に
張り出す。身近な者同
士(どうし)、許し合
えぬことが多いのは、
枝と枝とが深く交差す
からだ。それとは知
らず、身をよじり互い
に傷つき折りもする」
私は自分の枝の中に
ろうか。

それが必要以上に着
飾ろうとするが、もっ
と生きているだけです
ばらしいことに目を向
けたい。

神がつくりたもうた
花のごとく、咲き、そ
の花のごとく実を結ぶ
ために。

そして花のごとく
散っていければ良いの
だ。本当の豊かさはそ
こにあるのではないだ
ろうか。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

そして、良くはわか
らないが花に祈り、花
のように生きたい。限
りある残された人生を
豊かにするために。

花のよう に、 生きる

美しく咲き、

香り、実るための

禅の教え

臨済宗全生庵住職

平井正修

安倍晋三首相、
中曽根康弘元首相らが
参拝する禅寺の住職から、
悩める現代人へ、
渾身のメッセージ。

心を
リセットし、
いまの
豊かさを
知る
85のヒント

でもな
いこと
を、
なこ
して
みる。
何よ
うな
丁寧
に



初冬
定価(本体1200円+税)



紫陽花は咲き始めたばかりだ